

# 現代語における 接尾辞「ばい」の用法

久 保 有 佐

はじめに

ある電器店で

客「パソコンで見られる小説のソフトはありませんか」

店員「うちには置いてないみたいですね」

客「そうですか、ないっばいですか。わかりました。」

このような、「Xっばい」という言い方をよく耳にする。この言い方は、若者が使う俗語的な響きがあり、言葉の乱れとして捉えられがちであるが、『日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ。』という本には、次のように使われている。

「現在進行」を扱うとき、「本を読んでいます」や「サッカーをしています」を例文として導入すると、「サッカーをしています」に比べて「本を読んでいます」では、文字を目で追うように首を横に動かすなど、あまりにもわざとらしく、いかにも演技っばいになります。

前者と後者を比べると、後者は言葉の乱用とは感じない。一体「ばい」とは、どのような接尾辞であるのか。『広辞苑』によると、～の傾きがある、～しやすいという意味である。しかし、これだけでは説明が不十分である。そこで、時代を遡り、意味、用法の推移を分析し、そして現代の使われ方を考察してみたい。

## 1 現代の「ばい」の用法

### 1-1 上接語の典型的な特徴が色濃く現れている。

#### a-1 人の性質・態度

体の類+ばい：あぶらっばい 男っばい 黄色っばい 子供っばい 先輩っばい

毒っばい 熱っばい 理屈っばい

相の類+ばい：青っばい 幼っばい 湿っばい 苦っばい 無理っばい

## a-2 人の感覚

## a-2-1 精神的

体の類+ばい：子供っぽい 熱っぽい 骨っぽい 理屈っぽい ロリータっぽい  
 相の類+ばい：青っぽい 寒っぽい 湿っぽい 白っぽい 安っぽい

## a-2-2 生理的

体の類+ばい：汗っぽい あぶらっぽい 粉っぽい 熱っぽい 水っぽい  
 相の類+ばい：煙っぽい 寒っぽい 湿っぽい 苦っぽい

## a-3 具象物の状態

体の類+ばい：垢っぽい 赤茶っぽい 汗っぽい あぶらっぽい 男っぽい 黄色っぽい  
 金属っぽい 子供っぽい 粉っぽい 塩っぽい 皺っぽい  
 砂っぽい 茶っぽい 茶色っぽい 艶っぽい 鼠っぽい 熱っぽい  
 ピンク色っぽい 埃っぽい 骨っぽい 水っぽい 紫っぽい  
 相の類+ばい：青っぽい 赤っぽい 黒っぽい ごそっぽい 湿っぽい 白っぽい  
 安っぽい

## a-4 環境・雰囲気

体の類+ばい：塩っぽい 煤っぽい 熱っぽい 埃っぽい  
 用の類+ばい：汚れっぽい  
 相の類+ばい：黒っぽい 煙っぽい 湿っぽい 乱暴っぽい

## 1-2 いかにも～である

## b-1 人の性質・態度

体の類+ばい：Hっぽい エロっぽい お姉さんっぽい お姫様っぽい 女っぽい ガ  
 キっぽい 学生っぽい 玄人っぽい げすっぽい 素人っぽい スケ  
 ベっぽい 中年女っぽい 皮肉っぽい 秘密っぽい 不良っぽい 勉  
 強の虫っぽい やくざっぽい  
 相の類+ばい：あだっぽい 荒っぽい あわれっぽい 気障っぽい 不機嫌っぽい

## b-2 人の感覚

## b-2-1 精神的

体の類+ばい：アホっぽい 色っぽい げすっぽい 俗っぽい 水商売っぽい  
 相の類+ばい：あだっぽい 荒っぽい あわれっぽい 卑しっぽい 軽っぽい 気  
 障っぽい

## b-2-2 生理的

体の類+ばい：色っぽい

b-3 具象物の状態

体の類+っぽい：いい女っぽい 女っぽい 俗っぽい

相の類+っぽい：あだっぽい 荒っぽい あわれっぽい 幼稚っぽい

b-4 環境・雰囲気

体の類+っぽい：戦争っぽい

1-3 ~やすい傾向にある

c-1 人の性質・態度

体の類+っぽい：浮気っぽい 遠慮っぽい 愚痴っぽい

用の類+っぽい：飽きっぽい 恨みっぽい 疑りっぽい 怒りっぽい 感じっぽい ひ  
がみっぽい 惚れっぽい 忘れっぽい

c-2 人の感覚

c-2-1 精神的

用の類+っぽい：怒りっぽい 濁りっぽい

c-3 具象物の態度

用の類+っぽい：忘れっぽい

1-4 上接語の典型的な特徴がどことなく感じられる

d-1 人の性質・態度

体の類+っぽい：いたずらっぽい 嘘っぽい 男の子っぽい 大人っぽい ノイロー  
ゼっぽい 保護者っぽい 娘っぽい モーツァルトっぽい

d-2 人の感覚

d-2-1 精神的

体の類+っぽい：いたずらっぽい 現代っぽい 恋っぽい 探検っぽい 逃避っぽい  
ドラマっぽい フランスっぽい 瞑想っぽい

d-2-2 生理的

体の類+っぽい：風邪っぽい 熱っぽい

d-3 具象物の状態

体の類+っぽい：海っぽい 隠れ家っぽい サーファーっぽい 少女っぽい 少年っぽ  
い 未亡人っぽい 娘っぽい

d-4 環境・雰囲気

体の類+っぽい：夏っぽい ブルースっぽい 旅行っぽい

1-5 まとめ

現代の「っぽい」も江戸・明治・大正時代に引き続き、「上接語の特徴を多く含む」と

いう意味で使われる傾向にある。

現代の「ぼい」の特徴として、まず言えることは、「上接語の典型的な特徴が色濃く現れている」という用法で、具象物の状態を表すものが多いことである。

そして、「いかにも～である」という用法において人の性質や態度を表す語が多く見られる。

それから、「上接語の典型的な特徴がどこことなく感じられる」という用法の語が増え、その表現するところは、人の性質・態度・感覚、具象物の状態、雰囲気と幅広い。現代では、よく、この「～っぽい」という言い方を耳にする。この言い方は、プラス、マイナスどちらのイメージも伴わず、ただ単に、どこか上接語の特徴を感じると言いたいときに使われる。

## 2 具体例

### 2-1 あわれっぽい

1. 仔犬は、つれて来られるまえから、かなり乱暴なあつかいをうけていたらしく、最初からいかにも哀れっぽい悲鳴をあげていた。 安部公房『無関係な死』一四五
2. すなわち、世之介の質問に答えた飛のアワレっぽい身の上話もデタラメの作り話なら、それに対する世之介の、いや実は自分も金性なのだ、という返答も（遊びの席での、とっさの、つき合いの）嘘なのではなからうか？

後藤明生『吉野大夫』（1981）一二五

明治・大正時代に用法が拡張したが、現代では、江戸時代の使われ方と同じ「いかにも～である」という用法で用いられる。よって、「いかにも～である」が「あわれっぽい」の核となる用法である可能性が高い。

### 2-2 熱っぽい

3. 熱っぽい蒲団の中で彼の頭にうかぶのは、実行には決してうつらないさまざまな自殺の方法や、それについての夢のような考えばかりだった。

安岡章太郎『海辺の光景』（1960）五六

4. 家自体が疲労の色に包まれ、日常生活のあらゆるディテールは混沌として、無秩序にくっつき合いながら重苦しく、熱っぽく流れて行った。

安岡章太郎『海辺の光景』（1960）七七

5. 凶暴なものがふとちらつくことのある彼の眼の底に、熱っぽい人懐っこさが隠れているのを、由里は見付けていた。 森茉莉『ポッチチェリの扉』（1961）一三

6. いかにかそれが真剣な熱っぽい思いであったにしても、私はまだ十四歳の子供でしか

なかった。

宮本輝『錦織』(1982)三七

7. 案の定、翌朝は少し熱っぽく、のどが痛んでいた。 川西蘭『ルームメイト』七四  
 用例7は、「上接語の典型的な特徴がどことなく感じられる」という用法だが、人の態度や言葉、場の雰囲気、具象物の状態を表すときは、「上接語の典型的な特徴が色濃く現れている」という用法である。用例7は、具合が悪くなる兆しを感じるから、未だ「どことなく感じられる」のであり、その他の用例は、すでに熱がこもっているのである。

### 2-3 青っぽい

8. お見かけ通りの青っぽい浪人です 武田麟太郎『銀座八丁』(1934)  
 9. 鏡で見ると、頬の腫れは引いていたが、直美の言ったとおり青っぽくなっていた。  
 干刈あがた『黄色い髪』(1987)七二

「上接語を多く含む」という意味が、人に使う場合(用例8)未熟である、具象物に使う場合、青みを帯びているという意味になる。

### 2-4 まとめ

現代の「ぼい」もやはり、マイナスイメージを伴う語が多いが、プラス・マイナス、どちらのイメージも伴わない語も目立ってきた。それは、色彩形容詞と現代の造語である。

現代では、人の性質や態度を表す語は、「いかにも～である」という用法で多く見られ、人の感覚、具象物の状態、環境・雰囲気を表す語は、「上接語の典型的な特徴が色濃く現れている」という用法で多く見られる。「上接語の典型的な特徴がどことなく感じられる」という用法は、造語がほとんどである。

現代の「ぼい」の特徴は、造語が多く見られることである。その造語は、体の類に「ぼい」をつけて、どこか上接語の特徴を感じるというように使う。

## 3 現代にみられるようになった用法

### 3-1 それっぽい

具体的な名詞ではなく、指示代名詞「それ」にまで、「ぼい」がつくようになった。

1. わぁん、ないない。鞆の中身くらい整頓しておいてよお。あ……さわった……それっぽい……あった！ 久美沙織『MOTHER』(1989)四九  
 2. (主人公の桜木花道がバスケット選手らしいかどうかについて)  
 木暮：「たった4か月足らずで人並みの選手になろうっていう方がムリなのに……、でもだんだんそれっぽくなってきたる……」 黄(2004)P.30  
 3. [問]

→次の森鷗外作品のうちテーマとして「安楽死」を扱っているものはどれか。

- (1) 安部一族
- (2) 最後の一句
- (3) 高瀬舟
- (4) 山椒大夫
- (5) 舞姫

(略) 私は(2)を選んだ訳ですが……、何げにタイトルもそれっぽい訳ですが……

<http://www.enpitu.ne.jp/usr6/bin/month?id=65207&pg=200403>

4. 株式会社グレードコミュニケーションズの会社名の由来について聞かれることがよくあるが、単純で、最先端っぽい名前をつけたかったから。(略)後半の「communications」は、創業当時、何をやるかまだにゆるにゆる決まっておらず、ぼんやりとマーケティングのコンサルティングを中心にやっていこうかと思っていたので、それっぽい接尾辞として付けた。

<http://hoya.jugem.cc/?eid=138>

株式会社ブレード・コミュニケーションズの代表の保谷武のブログ

1-4で扱った、「上接語の典型的な特徴がどこもなく感じられる」という用法の語が、現代の造語には多く見られる。「それっぽい」もそのひとつではないか。

黄(2004)は、「それっぽい」について次のように言及している。

ふつう、「芸術家じみる」は、「それじみる」のように、派生語の語基のところでは「それ」があらわれない、あるいは接尾辞は代名詞に接続しないはずである。なぜなら、代名詞が文中のほかの要素と照応する文法的関係があるからである。しかし、同じ接尾辞によって派生した語彙の中には、典型的な例(子供っぽい)もあれば、周辺的な例(それっぽい)もある。

(黄 2004)

しかし、「なぜこのような事態が起こりうるのか、その派生プロセスとどのようにかわるのか」は、今後の課題である。

### 3-2 概言のムード

次の「っぽい」は、状況からの推量的判断をしている。

#### 1. どうやら明日は雨っぽい。

『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』P. 398

これは、キケゼ(2003)で述べられているように、「先行語が名詞であるが、ただこの場合はモノではなく「出来事」を表している。」

「出来事」を表すようになった「っぽい」はさらに派生して、次のような表現を生み出している。この場合の「っぽい」は、概言のムードではないか。益岡・田窪(1992)を参

考に、「っぽい」の働きを考えてみたいと思う。

益岡・田窪 (1992) では、「ムードを広義に解し、述語の活用形、助動詞、終助詞、等のさまざまな文末表現を扱う。」<sup>(註1)</sup> 其中で、概言のムードは「真とは判断できない知識を述べる」ものである。そして、「概言は、その内容によって、断定保留（「だろう、まい」）、証拠のある推定（「らしい、ようだ、みたいだ、はずだ」）、可能性（「かもしれない」）、直感的確信（「にちがいない」）、様態（「そうだ」）、伝聞（「そうだ、という、とのことだ」）、などに分かれる。」「っぽい」はこの中の、「証拠のある推定」に組することができるのではないかと。

そして、

「らしい」は、原則として間接的な経験（伝聞、他人の調査結果、等）による推定であることを述べる形式である。これに対して、「ようだ」（話し言葉では「みたいだ」）は、何らかの意味で自分が直接体験したこと（視覚、自分の調査、等）に基づく推定を述べる形式である。 (益岡・田窪1992)

とすると、次の用例は、自分の状況や調査から判断を下しており、「ようだ」と同じ働きをしていると考えられる。

2. 僕がいる大学は冬休みになるとインテンシブと言う猛勉強週間があります。(略)  
このインテンシブのせいで成人式に出席できないっぽいです。

2006.10.29|Diary|Comment

<http://fieguel.jugem.cc/?month=200610>

3. まだどこのブログにも報告はあがってないっぽいが、このイベントに参加した人はどのくらいいたのだろうか。

[shintatea.nifty.com/nikki/2006/04/rengou\\_campaign\\_cfDe.html-44k](http://shintatea.nifty.com/nikki/2006/04/rengou_campaign_cfDe.html-44k)

4. この日本という国名、いつから使われてるかとか、いろいろ微妙っぽいんだよね。

難しいというか、聖徳太子の「日出る処の天子、日没する処の天子に書を致す、恙がなきや云々」あたりが元になってるっぽいけど。

[http://www.kotokaji.jp/kotobabura/2007/09/post\\_33.php](http://www.kotokaji.jp/kotobabura/2007/09/post_33.php)

5. 98年頃の雑誌記事を見ると、当時の開発版では [ & ] ではなく # が使われていたっぽいです。

HTML/Microsoft Office

<http://suika.fam.cx/~wakaba/~temp/wiki/wiki?HTML%2FMicrosoft%20Office>

6. 日本ではあまり流行ってはいませんが、本国ではAdobe Exchangeにけっこう登録されているので流行ってるっぽいですね。

<http://blog.njum.jp/flash/extension/>

7. 一緒に共演するためにオレも頑張るって言ったのに なんか眼中にないっぽい

デスよね……じつは

『のだめカンタービレ』17巻

8. 余談：札幌では来週から雪が降るっぽい、さすが異世界！！ 小出（2005）

9. 扇風機が壊れたっぽい mazulog.blog.72.fc2.com/biog-entry-194.html-31k  
3-2-1 とまどい

概言のムードの「っぽい」の中には、「っぽい」をつけて表現することによって、自分の戸惑いの気持ちをあらわしているものがある。

10. どうも間違ってるっぽい…… <http://ameblo.jp/010101/entry-10046706585.html>

11. 校長先生から直々に講師に任命されたんですが、どうやら本当に講師になったっぽいです。  
2006.10.27 | Diary | Comment

<http://fieguel.jugem.cc/?month=200610>

これらの「っぽい」を「ようだ」に置き換えてみると、印象が変わるのが分かる。

用例9. どうも間違ってるっぽい

どうも間違ってるようだ

用例10. どうやら本当に講師になったっぽいです

どうやら本当に講師になったようです

「っぽい」は「ようだ」より口語的であり、主観性が強いので、「間違えたこと」や「講師になったこと」がはっきりとしていない不安や、戸惑っている気持ちが伝わってくる。

### 3-3 内容節

12. そういえば、連れ合いには、講義を聴いている時間を勉強時間にカウントしたらダメだよっぽい事も言われたことがありました。 『司法書士7ヵ月合格』

「っぽい」は、「講義を聴いている時間を勉強時間にカウントしたらダメだよっぽい事」というように、従属節に関わる働きをするまでになった。この連体節を考察するのに、益岡（1997）を参考にしたいと思う。

益岡（1997）では、連体節の接続形式には、「ゼロ形式」、「という」、「との」等形式があるという。

文の概念レベルと内容節の接続形式

A. 名詞の限定表現は、限定の仕方の如何にかかわらず、基本的に命題のレベルに属する表現である。

B. トノ内容節は、引用が関係する表現であり、したがって基本的には、モダリティのレベルまでに関わる内容節を表す。

C. 内容節の範疇化という特徴を持つトイウ内容節の表現は、命題・モダリティというレベルの違いの影響は受けず、したがって、命題のレベルの内容節にもモダリティの

レベルまでが関わる内容節にも現れ得る。

さて、これをふまえて「講義をきいている時間を勉強時間にカウントしたらダメだよねっばい事」を見てみると、「ぼい」を接続形式とする連体節の表現だということができのではないか。ここでの「ぼい」は、「というような」という意味で使われている。12' . そういえば、連れ合いには、講義を聴いている時間を勉強時間にカウントしたらダメだよねっばいというような事も言われたことがありました。

「というような」は、引用をし、それについて自己の判断を下し、被修飾名詞の内容を表している。これは「トノ内容節」に似ている。よって、意味は内容節であると言える。ただし、形式は

#### a. 修飾節+ぼい+名詞

である。しかし、意味的に成立していれば、この形式も許容できるのではないか。試みに、「ぼい内容節」とする。「ぼい内容節」は引用が関係する表現であるので、文の概念レベルの観点から見ると、モダリティまでを含む内容節を表現する。

### 3-4 まとめ

現代になって「ぼい」は接尾辞からムードへ、そして節の接続語の働きをするようになった。このような変化があっても一貫していることは、「上接語の典型的な特徴がどこなく感じられる」という用法に繋がっているということである。

また、これらの「ぼい」は話し言葉で使われることが多く、書き言葉で使われるまでには至っていない。

### おわりに

卒業論文では、江戸時代から現代まで、「ぼい」がどのように使われ、また「ぼい」が付くことによって、どのような意味になるのかをみてきた。「ぼい」は、使われ始めたころは主に、人の性質や態度を表現するものだった。用法は三つに分かれていたが、それらは「上接語の典型的特徴を多く含む」という意味を共通に持ち、この意味が「ぼい」の核になる。

現代になってからは、体の類に「ぼい」をつける造語が目立ってくる。Yが、なんだかXのような感じがすると言いたいとき、「Xっばい」と軽く形容するのである。

また、「ぼい」は接尾辞にとどまらず、ムード、節の接続語へと、使用範囲を広げている。

「ぼい」はこれからどのように使われていくであろうか。動向を探り続けていきたい。

## 注

1. 益岡は『日本語モダリティ探求』で、ムードを次のように説明している。

「ムードとは、事態の捉え方、文の述べ方を表すモダリティが述語の位置に現れる（いわゆる「用言」）の形態に体系的に顕現したものであり、語論における形態的なカテゴリーである。」

益岡隆志 2007 『日本語モダリティ探求』くろしお出版

## 参考文献

- 河野俊之・小笠原義朗 2006 『日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ。』アルクp.123  
 ケキゼ タチアナ 2003 「「ばい」の意味分析」『日本語教育』118号 日本語教育学会  
 小出慶一 2005 「接辞「～ばい」の用法の広がり」『群馬県立女子大学紀要』第26号 国文学国語学  
 篇  
 黄其正 2004 『現代日本語の接尾辞研究』溪水社p.156-157  
 国立国語研究所 1964 『分類語彙表』秀英出版  
 益岡隆志・田窪行則 1992 『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版p.128  
 益岡隆志 1997 『複文』くろしお出版p.30-43  
 益岡隆志 2007 『日本語モダリティ探求』くろしお出版  
 松井栄一 1983 『国語辞典にない言葉』南雲堂p.172  
 1985 『続・国語辞典にない言葉』南雲堂

## テキスト

日本国語大辞典 第2版 小学館

文学作品における派生形容詞「～ばい」 1999. 10. 10～2002. 4. 6

駒澤大学・駒沢短期大学国文科 情報言語学研究室のホームページ

[http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi/ko\\_ha\\_ppoi.html](http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi/ko_ha_ppoi.html)

現代にみられるようになった用法の実例は、YahooまたはGoogleのホームページ検索によるものである（検索時期は、全て2007年9月である）

庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 2000 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』P.398

柴田幸 2003 『司法書士7カ月合格法』ダイヤモンド社

二ノ宮知子 2007 『のだめカンタービレ』17巻 講談社

(2008年 卒業)